

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 6 日（日）10:00~12:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 1

NPO 法人水のフォーラムの●●と申します。浦和区に住んでおります。水のフォーラムというのは流域の水ネットワークが健やかであることを願って、水の勉強をしながらの情報発信、お手元のこういった雑誌、それから「見沼田んぼ」での実践活動、ネットワークを保全するための実践活動。それから都市を持続可能にする農地・森林、その重要性を学ぶ「さいたま・水とみどりのアカデミー」を開講しています。今日は治水・利水の必要性、そしてハッ場の有効性等を検証されておりますので、私どもの活動を通じて考え方を意見として述べさせていただきます。

それでは、埼玉県は県土の 4 分の 1 が沖積低地だということです。これは日本一関東平野が広い、その中心をなす埼玉平野は河口から栃木県藤岡町辺りまで 5000 分の 1 の勾配という平坦な沖積低地。そして、沖積低地は地形区分で最も低い土地。それもたかだか縄文海進以降 5, 6 千年の歴史でできた地層ですから、中はスポンジのようです。この沖積低地が国土に占める割合、平均は 1 割なんですけども、埼玉県は 4 割も占めています。そこにはもちろん、人口も多く住んでますし、田んぼもある。その田んぼを残したい、ということをやっているんです。そこには荒川や利根川から水を引く用水路が、いく筋も延びています。それがお持ちしました「水の FORUM」11 号 2~3 頁、赤い線が用水路、その間を縫うようにしているのが河川です。このように利根川・荒川の山を水源とする河川から水を入れて、その後、埼玉県内で、用水路、田んぼ、田んぼからの落とし水、それがまた河川となり、それを堰上げし、それをまた再度利用し、それを川に入り海へ注ぐ。この水ネットワークというか反復利用のネットワークが古くから作られてきています。ここがひとつ問題だということです。水ネットワークというこのようにことで水が豊かです。生き物を育てています。河川—用水路—田んぼ—河川—用水路—田んぼとずっとつながっている埼玉の水ネットワークがこんな所にまでというふうに中世以降、日本人はいろいろと引いてきました。ですから日本の隅々まで、この用水路が行き渡っています。ということは、そこに水を供給しているということですね。で、大地を潤して生きものたちを育てています。農業用水というのは簡単に稲作のためにはと思われれますけども、私も米を作っていますけども 4 割しか使わない。6 割がガンガン入れるけどガンガン出る。地下水に漏れる。地下水になったり、関係する川に還元されたりしたりして、地下水位を上げたり、それから河川の水になります。そういったことで、単に農業用水というのは、米だけのためのものではない、大地を潤す水だということを認識してもらいたいと思います。くどくど書きましたが、春になって、見沼代用水は冬水がないですから、春になると水が来ます。そうすると木々が根っこを張ります、その水を吸います。すると地下水がぐんと上がる、それがよくわかります。そうやって 2 千年来も二次的自然を育ててきたと。それで、こういうことが残れば、田んぼが残れば、水ネットワークが残り、洪水の遊水地機能も、ヒートアイランド現象からも、確実と水と緑の場は都市住民の癒しの場にもなる。ただ、沖積低地というのは河川の氾濫原と呼ばれるように、元々は利根川、埼玉の場合は利根川、荒川が乱流していた所です。埼玉の水ネットワークを支える水みちは、河川、用水路、田んぼの水みちは、全て旧河道です。いざ、大雨が降ればそこは濁流の水道となる、ということです。上流で洪水機能を調節してもらえなければ、江戸時代はそうだったんだけど、いつも水に浸かり、泥水に浸かり、それだけでなく、住民同士が血を見る争いをしてきていました。古文書を読め

ばみんなそこらへんは書いてあります。それをなんとか解消したのが連続堤防なんです。ただ連続堤防というのは、水争いをとりあえず解消してくれましたけど、長くなればなるほど、安全度が下がる。だから、本当にこれは言いたいんだけど、スーパー堤防にしない限り、危険はいつもつきまとうわけですね。だから、それを補完するものが必要で、住まいの周りの輪中でもいい、二重の堤防でもいいけれど、上流でひとつコントロールしといてくれるってことはとても大きな意義を持ちます。それで私どもの活動も流域の水ネットワーク保全のためにやってるわけだけれども、もし洪水に脆弱のままでしたら、濁流の道を残すということになりますので、やめたほうがいいのかもわからない、ということまで考えているわけです。それで、ダムの上流のダムを見てみますと、八斗島のところで基準点とすると、ライト方面、それからサードには洪水調節機能があるんですけども、センターにないんですね。八ッ場ダムの計画はカスリーン台風の流量、洪水流量を目安にしたりしてますけど、雨っていつも同じ所に降るわけじゃない、それでカスリーン台風と同じくらい、またそれ以上だったと思われる明治43年の洪水では、中条堤が切れて、埼玉東部から東京まで、まさに沖積低地の全てが海原になりました。このときの大雨というのが、八ッ場ダムが建設されるであろう予定地の吾妻川流域の雨です。だから雨は同じところにいつも降るわけじゃないですから、いくつかの防御をしといて欲しい。そうでないと津波じゃないけれども、ああいう大水害がおこってしまう。八ッ場ができたからといって、全て解消するわけでは全くないけれども、いくつかの備えはしといて欲しいということです。それから利水の点から一つ言いたいのは、埼玉の農業用水は、急激な人口増に対して水の用意なくきてしまいましたから、農業用水をまわしました。さいたま市の水なんかは見沼代用水の水です。それで二百数十万人分を農業用水から転用してもらいました。残された水は生きものたちに残しておいてあげて欲しいのです。それで人間の水は人間が用意すべきでないかと思っています。大ダムというのは確かに環境に負荷を与えます。しかし人間の行動で負荷を与えないことはない、大ダムだけが与えているわけじゃないと思いますが、それはちょっとおいといて。ですから水源地の自然再生とか住民の方々の生活再建、それから山の鬱пей林、密になってしまった山の間伐、といったものはダムが入ることによって解消しようとしてます。それに対して、そういったことを精一杯やるべきであって、それはしていると思っています。それから、ダムの代替案に地下水があげられていますが、今申し上げたように、地下水は永い時間をかけて作る水です。それを、地球規模の水を奪うこと。それから農業用水は既に都市に転用済みですから、残された水は大地に残しておいてあげて欲しい。あと時間も短くなりましたので、まとめという形で、私の思いはもっと流域全体を見て欲しい。最後に、もっと大事なことがありました。下流域の都合でダムが必要だったとしても、上流の方々の理解と協力がなければ実現しません。過去の水争いでは明治以降も軍隊が動きまわし、警官隊が出たり、それこそ流血の騒ぎになりました。でも八ッ場は機動隊が入ることもなく、警官隊が入ることもなく、その代わり時間はかかりましたが、水源地の方々の理解をいただくことができました。やっどこまで来たんです。それを何故、止めなければいけないのか、私は全く理解に苦しみます。それから報道もいつも水源地の話に終始しますけども、私どもの流域住民が水道料をずっと長年いれてきているんです。それで水源地に架かるあの大きな高いところの橋がよく映っていますけれども、橋はダムが造っていただくことのお礼として造るものであって、なんで橋だけが造られるのか、それも意味不明だと私思っています。それで、上流域の過疎化にしろ、今の鬱пей林になってしまった山にしろ、ダム建設が行わなければ解決したとは思えません。上下流で協力し、補完し合うことは悪い話ではないと思います。上下流の協力で自然を保護し、保全し社会を健全に維持するという総合的な視点を持っていただきたいと思います。この2年の空白に深い憤りを感じますが、再検証でその有効性が再確認されたからには、大体、こういう話の場も本当はいかかなものかと思ってるんですが。一刻も早い

建設再開をお願いしたいと思います。

以上